

大学生の選んだ「こどもたちに読ませたい本」の展示

Displaying the Selected Books that University Students would Recommend for Children

吉田 昭子

Akiko Yoshida

要旨

図書館における展示に対する関心が、館種を問わず高まっている。大学図書館における展示の動向について述べ、文化学園大学で筆者が担当している司書課程の「児童サービス論」における展示の実践事例を取り上げた。学生一人一人が自分の読書体験を基に、こどもたちに読ませたい本を選んでPOP（書店で行われているような、おすすめ本を紹介したメッセージカード）を作成し、そのPOPと本を文化学園大学の展示コーナーに展示した。

学生は「こどもたちに読ませたい本」の選書を通して、発達段階に即した読書の必要性について理解し、自分自身のこども時代の読書体験を振り返り、こどもの頃読んだ本を読み返し、新たな観点でこどものための本を評価することができた。学生はそれぞれ工夫を凝らしたPOPを完成し、大学図書館に展示した。この展示を通して、学生は利用者と本の出合いや教員、学生、図書館員間の情報共有や伝達、人的交流に関する貴重な場を得ることができた。さらに、司書課程の学生が展示という司書の仕事を学ぶ上で、大学図書館での体験が有効であることを確認することができた。

●キーワード：図書館（Library）／展示（Display）／児童書（Children's books）

I. はじめに

図書館における展示に対する関心は館種を問わず各図書館で高まっている。利用者に資料に対する関心を喚起させ、理解を深めて活用してもらうために図書館は、さまざまな努力と工夫を行っている¹⁾。館内展示を企画実施することで、これまで図書館を訪れたことのなかった利用者が実際に来館し、リピーターとして繰り返し訪れる機会を作ることができる。また、インターネット上でのデジタル画像類を用いた展示で図書館のウェブサイトを訪れたり、実際に図書館に足を運ぶ利用者数の増加を図ることができる。しかし、日本の図書館における展示についての研究は充分には進んでおらず、まだ実態調査や事例報告を積み重ねている段階にあるといわれる。

大学図書館においても、東京大学附属図書館²⁾や早稲田大学図書館³⁾のように、貴重資料デジタルコレクション等、特定テーマに関する展示や新着図書の展示等が行われている。また、これまでとは異なった多様な切り口での展示も実践され始められている。

本学の図書館も、インターネット上に貴重書デジタルアーカイブ（服飾とその周辺分野における文献、特に16世紀から19世紀までに刊行された図書や雑誌、

ファッションプレート等）のコレクションのデータベース⁴⁾、文化学園に属する機関の研究成果等を集積した機関リポジトリ⁵⁾の公開等を進めている。

このように本大学図書館のメリットや特性をさらに生かし、学生や教員が取り組んだ日常的な授業成果を身近な大学図書館での展示を通して紹介することができるのではないかと考えた。既存の展示施設の活用や構成員としての教員や学生と図書館員などの協働により、図書館が保有する資源をよりよく活用し、その成果を、効果的、効率的に発表することができるのではないかと考えた。

本稿では、大学図書館における展示の動向・学生参加の型の展示について述べ、さらに筆者が担当している司書課程の「児童サービス論」の授業における事例を取りあげる。学生が自分の読書経験を基に、こどもたちに読ませたい本を選んでPOPを作成する。そのPOPは大学図書館の展示コーナーに展示する。そして、その成果を通して、大学図書館における展示について考察する。

II. 大学図書館における展示の動向

1 大学図書館における展示の目的や意義の変化

大学図書館における展示活動の目的と意義を、篠塚富

士男⁶⁾は先行研究を基に、次のように整理している。

図書館の展示には次にあげる4つの目的、①メモリアル・セレモニー、②教育・研究目的、③図書館の広報・利用教育の一環、④エンターテインメントとしての展示があるといわれる⁷⁾。従来の展覧会では①と②のタイプのものが多かったが、③や④のタイプを重視する傾向が進んでいる。さらに、従来のように、大学の構成員に向けた展示会だけではなく、大学の外側に向けた地域貢献の観点から、生涯学習の場としての展示会の要素が付加され、資料の見せ方等に工夫が求められるようになってきた⁸⁾。

また、展示の性質や利用者のタイプから見た展示の目的としては①貴重書紹介、②テーマに関する蔵書紹介、③目録の使い方、資料探索法などを説明する利用者教育や利用指導、④学生にゆとりの時間を設ける利用空間の快適性の提供の4つをあげることができる⁹⁾。

図書館で展示を行うことには、①利用者に対して資料への興味や知識欲の向上や資料活用を喚起する啓蒙活動的な意義、②図書館や大学の社会へのアピール、地域貢献の一環としての広報活動としての意義、③図書館職員に対して企画力、専門的知識の活性化などをもたらす人材育成活動的な意義の3つがあるとされる¹⁰⁾。

さらに、篠塚は国立大学の法人化が進められると、大学図書館の公開やサービスの範囲拡大が行われ、大学の構成員以外の地域社会への貢献も重視した展示が実施されるようになったと指摘している。このように、大学図書館が行う展示は、もはや従来の単なる集客効果だけではなく、より多面的で新たな効果を生むことが期待されているのである。

2 日本の大学図書館における展示に関する実態調査

大学図書館における展示の効果をみるには、日本の大学図書館における展示に関する全国規模での実態を把握する必要がある。比較的大きな規模の調査としては、田中麻巳が『日本の図書館：統計と名簿』2011年版¹¹⁾に掲載されている4年制大学の図書館1,391館を対象に2012年5月に実施した郵送による調査がある¹²⁾。

この調査に回答があったのは、全体の59.8%にあたる832館である。その内訳は国立大学182館(62.8%回収)、公立大学71館(57.3%回収)、私立大学579館(59.3%回収)である。どの館種も6割程度の図書館が回答したことになる。「展示」とはこの調査では、「学内で、主に大学の構成員に向けて図書館資料等を展示する

活動」として定義づけられている。展示内容には貴重書展示から新着資料を含む幅広い展示が含まれている。

調査項目としては、①展示の重要性、②展示スペースの有無、③展示実施の有無、④展示実施の目的、⑤展示の担当者、⑥展示業務の位置づけ、⑦展示の評価・効果への関心の7つが設定されている。

この調査に回答した832館中の7割にあたる557館が展示を実施していると回答している。展示実施回数は5回が最も多く、平均5.46回実施されている。図書館費総額、職員数、延床面積が少ない館ほど展示を実施していない傾向がみられる。設備としての展示コーナーを有する館は半数以上の457館をしめ、スペースがないと回答している館は232館で3割弱を占めている。少ないが展示コーナー以外に展示施設や展示室を有する図書館がある一方で、展示スペースを持たないものの、カウンターの周りや館内のあいているスペースを利用した展示を行っている図書館もみられる。

展示を実施する目的としては、「特定主題やテーマに関心を持ってもらうため」、「普段触れ合う機会のない資料を見てもらうため」、「読書をしようという気持ちを喚起するため」が圧倒的に多い。回答館の6割が展示を「重要」と考えており、図書館費総額、職員数、延床面積が多い館ほど展示を重視する傾向がみられる。

この調査結果から、現在、展示を重要と考えて、必要不可欠とみなしている図書館がかなりの数で存在していることや、図書館における展示は図書館費総額、職員数、延床面積等の規模が大きな館ほど重要視し実際の実施率も高く、規模が小さい館ほど展示が実施しにくい環境にあることがわかる。

展示担当者については、展示を実施していると回答した570館のうち、複数回答で図書館員553館(97.0%)、学生104館(18.5%)、教員97館(17.0%)、図書館員以外の職員34館(6.0%)、附属博物館等の学芸員7館(1.2%)、その他17館(3.0%)という結果になっている。展示の準備、企画、実施の各段階での担当者間の分担や協力がどのように行われているかは、この調査のみでは不明だが、ほとんどの場合は、図書館員が展示担当の中心的役割を果たしている。しかし、学生や教員の協力を得て展示を行っている図書館も2割弱は存在していることがわかる。

「展示を実施していない」と回答した248館に対して、展示を実施しない理由をたずねると、「必要だが実施できない」という回答が最も多く、その理由としては「ス

ペースがない」、「時間的余裕がない」、「適切な展示品がない」等がみられる。

展示のほとんどは図書館員が中心となって実施しているという回答結果と、必要性を感じながらも実施できないという回答を考え合わせると、展示を実施する上での図書館員の業務量における負担の大きさが影響していることが推測できる。このことは、大学図書館の現場において、大学の構成員である教員や学生などによる人的な協力体制が構築され、展示スペースや展示物の選定での支援が得られれば、展示を実施できないと回答している図書館においても、展示を開催できる可能性があることを示していると考えられる。

Ⅲ. 大学図書館における学生参加

1 選書ツアー

近年大学図書館では学生参加型の図書の選書が行われている。ブックハンター（本を選ぶ人）は学生である。学生が直接書店に行って、図書館に置いてほしい本、読みたかった本、ゼミで薦められた本、興味を持った本を選ぶという選書ツアー（ブックハンティング）が大学図書館で実施されている。図書館員が直接書店に赴いて図書を買うという店頭選書は、以前から行われてきたが、図書館員ではなく、利用者である学生が自ら書店で図書を買う方式である。

2 POPの展示

ブックハンティングに参加した学生がポップPOP（書店で行われているおすすめ本を紹介したメッセージカード）を作成して、図書館内や書店内に展示している大学図書館も増加している¹³⁾。Ⅱ章2節でとりあげた実態調査で、展示を学生が担当して実施していると回答している館の中にはこうした選書ツアーの成果を生かした展示も含まれている。

さらに、大学図書館によっては、書店で販売促進のためにポップを作成している書店員を講師に招いてPOPの講習会を実施し、その講習会で学生が作成したPOPを展示している図書館もみられる¹⁴⁾。

3 図書館が実施するPOPコンテスト

図書館利用と読書推奨活動促進の一環として、POPコンテストを開催している大学もある。作品を募集して、応募作品の中から、図書館員や利用者等の投票形式で受賞作品を選び表彰している。その選考結果を図書館

報やインターネット上の図書館ウェブページで紹介している図書館もみられる。

たとえば、弘前大学附属図書館では、大学図書館が所蔵している図書についてのPOPを作成して、投票で大賞、優秀賞等を決めて表彰している¹⁵⁾。また、成蹊大学図書館では、書店の店員を講師にPOPの書き方講習会を開催しており、書評&キャッチコピーコンクールも実施されている。入賞作品は大学図書館に展示するだけでなく、コラボレーションしている書店にも展示している¹⁶⁾。

大学図書館での展示は大学内に留まらず、書店との連携、地域への広がりを見せているのである。

Ⅳ. 大学生の選んだ「こどもたちに読ませたい本」の展示の実践

1 図書館で展示を行った経緯

今回、本学大学図書館で資料展示を行うに至った経緯について述べる。

文化学園大学現代文化学部司書課程では、主に都道府県や市町村立図書館などで働く図書館司書の資格を取得することができる。司書は、資料の収集、分類、整理、貸出、利用者からの質問に応えるレファレンスサービス、児童サービス等の仕事に携わっている。これは、筆者が担当している2015年度後期に開講した司書課程の児童サービス論の授業での実践事例である。

児童サービス論では、学生は乳幼児からヤングアダルトまでの児童を対象に読書の楽しさを育むために展開されている様々な児童サービスの実際を学ぶ。この授業の中で、学生が「こどもたちに読ませたい1冊」を選び、その本を紹介するPOP（書店等の売り場で行われている店頭広告）を作成することを取り上げた。大学生として、対象年齢に配慮しながら、自分の体験を振り返るとともに、こどもたちに読ませたい1冊を選び、自分なりの工夫を凝らしてPOPを作成した。

このPOPと本を、本学図書館の展示コーナーに置き、教員や学生に広く紹介したいことを附属図書館に説明し、打診した。大学図書館が趣旨を理解していただき、通常は新着図書を展示している入口左側の展示ケース（第1図）を使用し、POPと本を対応させて展示できることになった。

展示ケース（大きさ130cm×260cm×30cm）は、利用者が図書館に出入りする際に必ず通る地下1階の入口左側壁面に位置している。図書館の入口は、教員や学生



第1図 図書館入口の展示ケース

がカフェテリアや購買施設等に移動する際の通路に面している。展示ケースは壁に埋めこまれた形式になっており、内部の棚の角度や棚数は変化させることができる。そして、この展示ケースは今回の展示で学生たちのモチベーションを高めるための最高の場となった。

2 授業で「こどもたちに読ませたい1冊」をとりあげ、展示を行う目的

児童サービス論の授業の中で「こどもたちに読ませたい1冊」を選びとその展示を取り上げる目的は次のようなものである。

(1) 「こどもたちに読ませたい1冊」を選ぶ目的

児童サービス論の授業を通して、学生は、こどもの発達段階を理解し、各段階に適した読書の必要性について学ぶ。学生自身が自らのこども時代の読書体験を振り返り、これまで読んだ本の中から、自分がお気に入りであり繰り返し読んだ本や最近出版されて興味を持った本等について考える。

自分はなぜ、その本に興味をもったのか、こどもであった自分が興味を持った理由や今自分がその本をこどもたちに読ませたいと評価する理由を考える。学生は、本を選ぶにあたって、こども時代に読んだ本を読み返したり、新たな観点からこどものための本について考えたりする機会を持つ。

学生たち自らが読書の楽しさをこどもたちと共有し、読書の必要性を次世代に伝えるにはどのような工夫が必要かを考える。図書館の司書の仕事を学ぶ過程で、効果的な読書推奨の方法を具体的にとらえ直す。こどもたちに読ませたい本を選び、選ぶ段階で明らかになったそれぞれの本の特徴を生かしてPOPを作成する。POPの作成を通して、選書の楽しさや難しさを自分なりに体験することが目的である。

(2) 「こどもたちに読ませたい1冊」を大学図書館で実際に展示する目的

作成したPOPと本を大学図書館に展示する目的としては、次の3つを想定した。

- ①授業で作成した作品、成果を広く紹介することで、利用者に本との新たな出会いを提供する。
- ②授業を通じて司書が担当する展示という仕事の準備、企画、実施の一端を担い、業務を体験してみる。
- ③図書館の現場で仕事を体験する機会がない学生が実務を体験し、業務に興味を持ち、展示の効果や重要性、難しさを具体的に学ぶきっかけとする。

ここでは、作成した作品を授業内の作品制作や成果にとどめず、教室を出て大学図書館という場に展示する。教室で得た知識や情報は、学生たちによってどのように、伝達され、交流し、共有されるのか。学生が図書館という現実の場での展示を経験することで、学びの楽しさにまで高めることを期待している。

3 POPづくり

各学生はそれぞれに対象年齢を設定し、本を選び、紹介のためのPOPを作成した。本の書名等と学生がつけたキャッチコピーは第1表に示したとおりである。

第1表 「こどもたちに読ませたい1冊」のリスト

『書名』 / 著者、出版社 (初版年)、対象年齢
学生がつけたキャッチコピー
『あらしのよるに』 / きむら ゆういち著 講談社 (完全版 2014年)、5歳～ 嵐の夜に出会い、姿が見えないまま友達になった狼とヤギ。食べる者と食べられる者という二匹の間に友情は成り立つのか…?
『エルマーのぼうけん』 / ルース・スタイルス・ガネット著 渡辺茂男訳 福音館書店 (1963年)、7・8歳～ アニメ映画化した作品! 幼児がはじめて手に取る冒険ものがたり
『おさるのジョージ』 / M.レイ, H. A. レイ原作 福本友美子訳 岩波書店 (1999年)、4・5歳～ みんな大好きジョージのおはなし きょうはきいろいおじさんとチョコレートこうじょうへジョージといっしょにみにいこう!
『おなべおなべにえたかな?』 / 小出保子著 福音館書店 (1997年)、3歳～ あったかいイラスト あったかいスープ 心あたまるストーリー この絵本を読むとあったか～～スープが飲みたくなります!
『カラフル』 / 森絵都著 講談社 (1998年)、中学生～

「世界はたくさんの色に満ちている」ぐっとくる、ハートウォーミングストーリー
『狐笛のかなた』/上橋菜穂子著 理論社(2003年)、小学上級～
どこまでも走ってよいのだ。いのちがつきるときまで。美しく儚いファンタジー時代小説
『スイミー』/レオ・レオニ作 谷川俊太郎訳 好学社(1969年)、5・6歳～
伝えたい3つのこと ・自己発見と自己表現 ・知恵と勇気を振り絞って新しい世界へ ・個性と役割
『だいきのしるし』/あらい えつこ著 岩崎書店(2013年)、3歳～
今日は、れなちゃんの幼稚園の発表会。でも、おかあさんが来られなくなっちゃった…そんなとき、ある特別なおまじないがあるのです。…親子の絆の物語
『だるまちゃんとしてんぐちゃん』/加古里子著 福音館書店(1967年)、3歳～
好きな人の真似って ついしたくなっちゃうんですね。
『ねずみのとうさんアナートル』/イブ・タイタス著 晴海耕平訳 童話館出版(1995年)、8・9歳～
幸せのぎっかけは…チーズでした! 「おもしろい ゼひ読みなさい」アナートル
『ママがおばけになっちゃった』/のぶみ著 講談社(2015年)、3歳～
お化けになっちゃったママとかんたろうのちょっぴり切ないおはなし

POPと本の他に書名、著者、出版社、出版年を表示し、本を選んだ学生の名前を記したプレートを用意した。学生の名前表示はペンネームを含め、本人の希望にあわせた。展示棚の中心には、学生が作成したタイトル画(第2図)と展示趣旨についての説明を添えた。



第2図 タイトル画(鈴木英美 作成)

POPに用いる素材や画材等は特に指定せず、学生一人一人が、それぞれ思い入れのある1冊を選び、自分なりに工夫を加えた。立体的作品もみられ、個性的なデザインPOPを作ることができた。POPの大きさはA4以下とし、作成方法は手書き、あるいはパソコン等を用いてもよいことにした。

4 学生の選んだ本に対する他学生の感想

学生一人一人がこどもたちに読ませたいと思った本を選んだ理由について発表を行い、他の学生との意見交換を行った。こどもの時に読んだ時の感動を思い出したり、懐かしいと感じたり、同じ作品が大好きだったなど、学生間で情報の共有や交流をすることができた(第2表)。

第2表 学生が選んだ本に対する他学生の感想

書名	学生が選んだ本に対する他学生の感想
あらしのよるに	大好きな本で、自分もドキドキしながら読んだ。▼狼の葛藤がほっこりする。▼小学生の頃に話題になり、映画もみたが、本は読んだことがなかった。▼シリーズがあるのを知らなかったの、読んでみたい。▼小学生時代に親が読み聞かせてくれた。絵のインパクトがすごい。▼絵は背景が黒で線がカラフルで珍しい。
エルマーのぼうけん	子どもの頃に家にあって、何回か読んだ。▼アニメもあり挿絵がかわいくて、全世界から愛される本だと思う。▼小学生の時に教科書で読んだことがあるが、改めて読んでみたい。▼所々を読み聞かせて聞いたことがあるが、自分できちんとよんでみようと思った。▼昔大好きだった本だが、今また読むと新鮮だった。▼冒険ものの本はワクワクして先を読むのが楽しみだった。
おさるのジョージ	おさるのジョージシリーズは私も大好きで、いろいろな話があるので、懐かしくてまた読んでみたいと思った。▼小さいころに読んでいて、黄色が印象的だった。どのシリーズも大好きだった。
おなべおなべにえたかな?	実際にタンポポのスープが飲みたくなったという紹介のように、温かみのあるイラストですごく惹かれた。▼お鍋を擬人化しているのが面白い。お鍋が良い人すぎると思った。▼お話のテンポがよく、親子で楽しめそうな絵本だと思った。▼今まで知らなかった本だが、タンポポのスープが飲みたくなった。▼主人公のぎつねといたちの兄弟の他のシリーズを読んだことを思い出した。セリフのないキャラクター(はっぱにスープをいれて運ぶアリなどの描写)にも注目してしまった。▼絵が特徴的で鍋の顔も全部違って面白い。私は好きな絵の本だけしか読まなかったの、初めてのタイプの絵だが、こうした絵も子どもは好きなのかと驚いた。▼初めて読んだが、『グリとグラ』の大きなカステラを思い出した。絵本の中の食べ物は夢があつてすてきだと思う。▼話の長さもそれほど長くなくて、読みやすい本だと思った。本に出てくる料理はどれもとてもおいしそうに見える。

カラフル	表紙が黄色1色でシンプルな印象的な本だと思った。挿絵がかわいく、読みやすそうな小説だと思う。▼母に勧められて読んだ。推理しながら読んでいたので、途中で結末がわかってしまったが、あの世とこの世の話といったテーマで書かれた内容は実に面白かった。▼森絵都の文章はやわらかくてとても優しいところが好きだ。話も面白くリズムもよく、あつという間にひきこまれる。設定も面白く、もし自分が他の家の子になったとしたら…とよく考えた。
狐笛のかなた	表紙がとてもきれいだと思った。私はよく表紙の印象で読む本を決めるので、読んでみたいと思った。獣の奏者エリンという他の作品を読んだことがあるので、この作品も読んでみたいと思った。人物紹介が載っているのがとても嬉しい。▼守り人シリーズを何冊が読んだことがあり、名前は知っていたので、この本も読んでみたい。▼私も上橋菜穂子の本は大好きだが、この本は読んでいなかったで、ぜひ読んでみたい。▼ファンタジー小説、まず表紙や挿絵がすごくきれいだと思った。じっくり読んでみたい本だと感じた。▼『精霊の守り人』は読んだことがあるので、これも気になる本だ。上橋菜穂子の本は言葉がきれいで、世界観に引き込まれる。
スイミー	教科書でこの話を知った。中学校の家庭科で好きな絵本の一節を発表する授業があり、スイミーのたとえがとても好きで「ドロップみたいなの」文を選んだ。▼絵のタッチや表現が独特できれいな日本語訳が個性的な本だと思う。▼個性の大切さを学んだ。小さい頃に読んだ曖昧な記憶しかなかったもので、今回改めて読んで、絵のすごさや内容を知ることができた。こどものころは流し読みで内容も頭には入ってこなかったが、時間がたって読み返すと良さが伝わってきた。▼話のあらすじは覚えていたが、絵は忘れていたが、絵の雰囲気が好きだったので改めて思い出した。英語版は知らなかったが、簡単な文なので英語の勉強に散光にしやすいと思った。▼自分以外、仲間がみな食べ垂れてしまったのに、くじけずに前向きに生きる姿勢がよいと思った。▼教科書に載っていて大好きな話だったので、よく覚えている。スイミーの表情が変わって、とてもかわいい。

だいたいのしるし	初めて読んだが、絵もきれいでとても好きになった。自分がお母さんになったら、ぜひ子供と一緒に読みたいと思った。▼やさしい雰囲気のイラストであたたかみのある絵本で感動した。▼淡い絵や絵柄が素朴でやさしい感じできれいな絵本だと思った。内容的にはありがちなものなのに、とてもひきつけられた。▼絵は柔らかい雰囲気です主人公の表情が細かく描かれているので、どんな気持ちなのか伝わり、つい応援してしまう話だと思った。弟の心配を忘れないのがかわいい。▼主人公の女の子はお母さんが発表会に来れなくなって、寂しいながらも弟を思いやる気持ち、そしてきてくれるのではないかと期待しているところがかわいくて良い子だと思った。
ママがおばけになった	ニュースで話題になったのを見て、気になっていた本だった。実際に読んでみると、ユーモアもあり、面白い絵本だと思った。▼シリアスな内容なのに、コミカルに描かれていて面白いと思った。▼初めて読んだが、絵本でおばけという悪いことをするとおばけが来るという教育的な内容が多いような気がしていた。しかし、この本は大人でも興味が出る感動的な内容で珍しいと感じた。▼物語のあとにお母さんへのお手紙を書くスペースがあり、子どもからお母さんへのプレゼントにもいいと思った。

V. 展示

展示期間は2016年6月17日から7月15日までのほぼ1か月に設定し、6月17日には学生と筆者で、展示棚に本を配置した。

本の大きさや画の色、画と文字の分量等を配慮しながら、展示棚に配置した(第3図)。この展示用の棚は図書館の入口の外側に位置しており、ケースの前面にガラスが入っているため、利用者は直接手にとって本のページをめくり、借りることはできない。そこで、本はできるだけ広げた形で飾り付け、一番よい場面を選んで本文が読めるように配列した。

たとえば、左下の『スイミー』のように英語版と日本



第3図 実際の展示

語版が出版されている場合は表紙と本文や絵が分かるように対照させて展示するなど、それぞれの本の特徴にあわせて工夫して展示を行った。

VI. 「こどもたちに読ませたい本の展示」をふりかえって、感想と考察

受講後にアンケートを実施した結果、展示の各段階について、学生からは次のような感想が寄せられた。

1 授業を振り返って

(1) 選書に関する学生の感想と考察

・選書については、1冊を決めるのに苦勞し、家族にも相談して本を選んだ。本を決めるまでにさまざまな絵本を読んで、懐かしい気持ちになったり、昔から知っている絵本でも当時とは違った見方ができたり、新しい発見などがあって楽しみながら選ぶことができた。

・こどもに読ませたい本の選び方について、本に触れる入り口として一つシリーズものを好きになってほしいと考え、『おさるのジョージ』を選んだ。1冊で終わるのではなく続きの話やキャラクターを通して、次の本を手取るきっかけの1冊にしてほしいと考えたからである。

<考察>

それぞれの感想から選書を通して、学生自らがその難しさと楽しさを実感していることがわかる。学生は対象年齢を設定して本を選び、読書体験を振り返って思い出の本を読み返し、今話題の新たな本を読むなど、自分なりの試行錯誤を通して、こどもたちに読ませたい本を選んでいる。こども時代の自分、成長した自分の視点だけでなく、家族の意見を聞くなど、多角的な視点から本を選んでいることを示している。

さらに、こどもたちが本に触れる最初の機会を大切に、発達段階に即した本を提供するという立場から、その後のこどもたちの成長をも考慮した選書を目指していることがわかる。選書から情報をどう伝達するかという学生の表現の深まりや成長が感じられた。

(2) POPづくりに関する学生の感想と考察

・自分にとってPOPを作ることが以前から密かな夢だったので、授業で作ることになったときはわくわくした。

・POPの作成にあたってはインパクトのあるもの、人に読んでみたいと思ってもらえるもの、本の魅力が伝わるものなど、どんなPOPを作りたいかは思い浮かんだが、実際にやってみると意外に難しく時間がかかった。

・自分自身楽しみながらPOPを作った。どこがこの本

の重要なポイントかを考えながら、短い文章や絵で伝えるということは大変だと思った。

・ポスター作りと似ている感覚があった。

・自分で作ったPOPが実際に本格的に飾る機会をもらえたことはとても嬉しかった。

・POPを見て、読み手の本に対して関心が生まれ、実際に借りるきっかけができることが、作り手としてとても嬉しいことを実感することができた。

・POP作りは、誰にこの本の何を伝えたいかによって情報の取捨選択をすることで、見やすくまたインパクトがあり、人の目にとまるPOPができることがわかった。

・あまりPOPについてじっくり見たことも調べたこともなかったので大変面白かった。

<考察>

展示に関する感想を学生にたずねる中で、学生がPOPの作成に興味を持っているが、実際に作成して展示する機会が実は少ないことが明らかになった。学生はPOPを作ることの喜びや楽しさを感じるとともに、短い言葉や絵でその本の魅力を伝えることの難しさも体験している。図書館を利用する立場から、読書の楽しみや必要性を伝える立場にたつことで、それぞれの学生がPRの難しさを改めて知り、実感していることがわかる。

2 展示業務を実際に担当した学生の感想と考察

<感想>

・他の学生が作成したPOPはそれぞれの個性や工夫が表れていて見ていると本当に楽しく、勉強になった。

・展示の並べ方にもポイントがあり、見た人が居心地のいい展示を心がけて、本の向きや見どころとなる開くページにも注意をしながら、作業を行った。

・それぞれが選んだ本は授業の中で読んだが、展示をみて改めて読み直してみたいと思った。

・今回展示で自分が作成したPOPをさまざまな方にみていただくことができた。貴重な体験が出来ただけではなく、学科の先生方から「見たよ」「孫に読ませたい」など直接感想を伺うことができたことはとてもうれしかった。

・これまでは見ていた側だったが、作る側として参加することができて、楽しい経験をすることができた。

・今回は、ガラスケースに入れてあり、実際に本を手にとれない場所での展示だったが、中身や表紙を見せる工夫がしてあり、とても見やすかった。

・自分の書いたPOPが展示してあったのが嬉しかった。

<考察>

展示場所やケースの制約や特性に応じて本の向きやどのページを示すか等の細かい工夫が求められることを、本を展示する過程で体験している。効果的な見せ方や陳列する場合の視覚的効果を考えることの難しさに気づいている。立場を変えて、様々な状況で多様に対応することができるのである。いずれも実際に展示を体験しなければわからない事柄である。

自分が作成したPOPの作品を展示することの喜びを感じただけにはとどまらず、展示を見てコメントを寄せてくれた教員や友人との交流を通じて、作り手との新たな人的な交流や発見が生まれている。

3 図書館スタッフからの感想

図書館スタッフからよせられた感想をみると、今回の大学構成員の参加型の展示の試みが、好意的に受け止められていることがわかる。

<感想>

- ・今後も図書館とコラボレーションというかたちで続けていくことができると良い。
- ・このような展示企画があると図書館と学生の間が身近に感じられて良い。今後も継続できると良いと思った。
- ・展示に学生たちの個性が出ていて良かった。
- ・コメントが学生目線の意見なので、他の学生たちにも理解されやすかったのではないかな。
- ・カウンターで貸出しを求められることがあった。
- ・図書の選定や演出（構成、POP等）のバランスがよく工夫されていて、館員が行う展示との違いが感じられた。
- ・自分の企画展示の改善点を振り返るよい機会になった。
- ・図書の選定以外にも、構成や演出に対する配慮も必要であることがわかった。
- ・図書館に来る学生に向けたテーマの展示だったらより関心を引くものになったのではと思う。
- ・学生のオススメ本の展示や企画展示も出来たら良いと思う。
- ・インターンシップで大学図書館を訪れた中学生が、「かわいい」と言って見入っていた。

<考察>

学生と図書館の間が身近に感じられるという感想からみて、相互の交流という意味でも効果があると考えられる。今後もコラボレーションとして継続できるとよいと

いう感想からもそれは読み取ることができる。図書館スタッフが学生の本の選び方や展示の方法に注目していること、学生の読書体験やそれぞれの個性の違いを理解し尊重していることがわかる。図書館員の先輩である本学の図書館スタッフが、今後のコラボレーションの可能性や企画展示の改善点を振り返る機会になったというコメントを述べていることは、司書の業務について学んでいる学生たちにとって、大いなる励みになった。

4 教員からの感想

展示を見た教員の一部から感想を聞くことができた。次のようなものである。

<感想>

- ・学生のおすすめ本の中に、読んだことのない本が沢山あるのを見て驚いた。
- ・普段は書店でこども向けの本を見る機会は少ないが、あらためてカラフルで美しい本がならんでいる様子を見て、こどもの本を読んでみたくなった。
- ・POPはそれぞれ個性的で自分なりの工夫がこらされていて魅力的だった。たとえば『おなべおなべにえたかな』のPOPなどはタンポポの花が立体的に作られていて、お話しの内容とあわせた巧みな工夫が凝らされていることに感心した。
- ・ガラスケースに入っていて本を手にとることができなかったが、本のページを開き、POPとあわせた紹介が行われていたので、実際に読んでみたいと思った。
- ・個性的で素敵なPOPが並んでいて、本の面白さを伝えたいという作り手の気持ちがよく伝わってきた。

<考察>

今回展示されている本やPOPを見て、教員は学生がこども時代に読んだ本や大好きだった本、その読書体験について、関心を持ってみつめ直している。学生が選んだ本の内容やPOP作品が個性にあふれている点や自分が伝えたい気持ちを自分なりに創意や工夫を込めて作っていることに、教員がそれぞれ感心するとともに共感して、本の展示を見ていることがわかる。

VII. おわりに

大学図書館における大学の構成員による参加型の展示の試みとして、筆者が担当している児童サービス論の授業の中でこどもたちに読ませたい本を選び、POPを作成し、大学図書館に展示するという実践することでたくさんの方の成果と課題を得た。

学生はこどもの発達段階に適した選書の必要性について理解するとともに、自らのこども時代の読書体験を振り返って本を選び、自分なりのPOPを作成した。

本を選ぶにあたっては、こども時代に読んだことのある本を再び読み返し、大学生になった自分の新たな視点で評価して、POPを作成した。

作成したPOPと本をあわせて、大学図書館という場に展示して紹介することで、利用者に新たな出会いを提供し、展示という業務の実際を学ぶことができた。学生は、準備から企画、実施に至る展示実務の過程を経験することで、展示の重要性や効果に気づくことができた。同時に読書の楽しみや必要性を利用者に伝え、理解を求めて共感を得ることの難しさを改めて学ぶことができた。

今回は大学図書館の協力を得て、作成した作品を授業内の作品制作や成果だけにとどめず、教室を出て大学図書館という場に展示することができた。学生たちが、自らが読書の楽しさをこどもたちと共有し、読書の必要性を次世代に伝えるにはどのような工夫が必要かを考える機会を得ることができた。

こうした参加型の展示を実施するにあたっては、展示の会場設定や必要とする予算の規模、来場者の構成や人数にも配慮した計画の立案も考慮する必要がある。大学図書館という場で、学生や教職員が快適に図書館を利用できるようにそれぞれの視点にたち、総合的な観点から展示を展開していく必要がある。

大学の構成員である学生や教員と図書館員が自主性や多様性に配慮しつつ相互に協力することで、大学図書館という貴重な場における学びをともに展開できることが、明らかになった。

謝辞

本稿の執筆にあたり、展示にご協力をいただいた文化学園図書館の職員の皆様と展示のタイトル画の作成や展示実務に協力してくださった鈴木英美さん、児玉沙絵さん、児童サービス論の受講者の皆様に心より感謝いたします。

参考文献

- 1) Jcross 図書館の「テーマ展示」各図書館が応募したテーマ展示から紹介
<http://www.jcross.com/collection/cat-3/> (2016-11-14 参照)
- 2) 東京大学附属図書館電子化コレクション
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/index.html> (2016-11-14 参照)
- 3) 早稲田大学図書館貴重資料紹介
<http://www.wul.waseda.ac.jp/Collections/rare-books.html> (2016-11-14 参照)
- 4) 文化学園図書館貴重書デジタルアーカイブ
<http://digital.bunka.ac.jp/kichosho/about.html> (2016-11-14 参照)
- 5) 文化学園リポジトリ
<http://dspace.bunka.ac.jp/dspace/> (2016-11-14 参照)
- 6) 篠塚富士男. 大学図書館における展示会活動: 図書館展示の分析および筑波大学附属図書館の事例報告. 大学図書館研究, no.80, 2007, p.43-53.
- 7) 松下眞也. 図書館と展覧会. 早稲田大学図書館紀要, no.4, 1996, p.1-46.
- 8) 木戸浦豊和. 東北地区大学図書館協議会合同研修会: 東北大学附属図書館における企画展の取り組み. 東北大学附属図書館報 木這子, vol.31, no.2, 2006, p.7-11.
- 9) 山田摩耶. 日吉メディアセンター企画展示の変遷. MedizNet, no.11, 2004, p.66-69.
- 10) 米澤誠. 広報としての図書館展示の意義と効果的な実践方法. 情報の科学と技術, vol.55, no.7, 2005, p.305-309.
- 11) 日本図書館協会図書館調査委員会編. 日本の図書館: 統計と名簿. 2011年版, 日本図書館協会, 2012.
- 12) 田中正巳. 大学図書館における展示の実態と図書館員の認識, no.101, 2014, p.83-92.
- 13) 青山学院大学図書館. 選書& POP作りツアー参加者募集～図書館の本を選び、ポップをつくろう!
<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/ja/news/1018> (2016-11-14 参照)
- 14) 鶴見大学図書館ブログ. POP講習会開催のお知らせ
<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/library/2016/11/pop-b75f.html> (2016-11-14 参照)
- 15) 弘前大学附属図書館 POP コンテスト
<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/guidetop/pop/pop2.html> (2016-11-14 参照)
- 16) 成蹊大学図書館 News & Topics ブックハンティング
<http://www.seikei.ac.jp/university/library/news/2016.html> (2016-11-14 参照)